

鹽尻

四篇

六

1會5
508
49



4 5
508
43

昔より四書をこころ

或人问我帝王の謚ハ何の代より始ふ哉
答
秋日中記曰神代等々の謚号ハ濱海海神
奉勅撰也云々これヲ濱海真人ニ託ス
六年又云これ延暦四年又云辛酉日中記云
昔より四年又云養覽の書なりぬれば云
ぬれ云々云々云々云々
神日本盤余先天皇と云々云々書一
一と云云勅撰謚号と撰せし後神代
天皇等の四字と細字の清名のり
か多し云々云々云々又同謚号絶
たると何の代よりぞ答神代より

概義より二十位迄謚号ありて中聖義
孝謙とハ五位の時より一とあり續日記記
りねは謚号よりは北守白皇極舟明一乃至
重祚の与りむゆりて法より歟祚徳孝謙と
野史又記せしも續日記化又ハ只一所の平城ハ十上上則
号よりそ祚徳孝謙を帝と稱せり
して和州の處又改城ハ山城の地あり
是より四於歌宮のより一を以て稱し
ありしとこれより謚号なりて法歟 謚
和とて祚の号ありて是も亦謚とあり
されと仁明文徳の謚ありて和陽也と
すく徳号ありて光孝と中興の帝なりて

謚とありて多し後と又歌とを以て稱す
又同治号ハ何れの代よりと 善十十 三代
冷泉院より以降天皇の号なり後世の字徳
神々の名と 同後の字と用ひてハ何れの代
よりと 善之條代までなりて十七代後
一條院以後の例なり

○佛体五部

佛頂部 如来部 菩薩部子
明王部子 諸天部星宿神將
或人同 公方亦佛なりと法成と稱す
成の字より法成の義なりとあり 曰夫帝

之如盲人の事書物に光孝天皇の御事あり
明と云ふは流人ありし一毎夜御事と稱す
之より帝紀を以んりしあり光孝天皇二十六年子ありて
身水しりありしありし思ふに御事の御りり
事と傳ふありしありし光孝天皇と云ふ御事
と稱す御りしありしありし一後少御事
ひりありし事とありしありし説と造りて
しりありしありしありし

○南都東大寺

大殿落慶上棟儀室永六年己丑三月十七日
大工堀内筑後橋貞長

堀内一郎在場橋満正

工近凡五百人

同月廿一日信春自此至四月八日毎日法華子部
南宮密宗佛聖の御事

勅使万里小路頭右大臣友成高房御辰

導師 安井道恕大僧正

東方寺衆徒回末山僧侶梅尾向上寺

安信山宗教寺 高山法崇寺

新業師寺 防具 凡御僧百口

業人二十員 兼仕十五人 小廻十人

公人三十五人 舞業十員

日二十二日

南都十三寺 僧侶凡四十八人

日二十三

南都真言宗 九十口

日二十四

同东门淨土真宗 六十口

日二十五

法隆寺 八十口

日二十六

南都如内中 五十口

日二十七

東照寺 五十口

日二十八

招提寺 七十口

日二十九

東福寺 導師 大僧院 貴至隆尊

日寺 衆僧一百員 衆徒二十人

中個十人 兼仕二十人 公人三十人

日每

紀列之野山衆僧凡二百餘口

四月朔日

北京都慈覺 尊統法親王

園理大僧心 衆僧凡一百三十五口

日二日

馬場山万福寺

衆僧凡一百五十口

日三日

西大寺、衆僧凡七十口

畑、郷、密宗六十口

日四日

内山、信衆六十口

日五日

言程山、信衆五十口 谷口信衆四十口

日六日

振列年野、大言佛、信衆凡一百八十口

日七日

慈壽山、信衆三十九口

日八日 通向 淨業如神具

东大寺 白山寺 崇教寺 法業寺

新業師寺 大和國中 寺凡五百負

右布毎々 燒香、法宗信侶、通向日凡一万

二、万余口ト云々

是ハ信衆の付極ニ歸テ其方記有り或信の
求り多しと云々

○ 結城氏ハ秀郷ノ男信守、府將軍 千尋
の六世太田太丈行政の裔也 結城氏ノ

終身多し

定川 白川 山川 金山 網戸 岡

平山 平方 小川 大内 小室 小田川

宇津子氏 法興寺園田 伐の終身

小田 塩谷 徳吉家 平賀 公三河 杉野

多知 築 吹山 ヲヤ 武茂 大山田 宇津

大久保

○ 終身多し 中 原 富 日記 援抄

但列新田 石尾 男 大希 多し 前 終身 多し
又 終身 多し 不 終身 多し 終身 多し 終身 多し
又 終身 多し 不 終身 多し 終身 多し 終身 多し

少と多しと事無也

勸進 弟 子 景 房 致 白

十方 檀 那 と 勸 々 二 世 弘 願 と 成 一 終 身 と

多 アガ 終 身 と 建 立 七 人 と 終 身 と 終 身 と

多 終 身 と 建 立 七 人 と 終 身 と

右 天 上 天 下 々 々 終 身 と 終 身 と 終 身 と 終 身 と

了 七 貴 々 々 終 身 の 功 々 々 終 身 と 終 身 と

神 皇 の 利 々 々 終 身 と 終 身 と 終 身 と 終 身 と

終 身 々 々 終 身 と 終 身 と 終 身 と 終 身 と

柳 宮 権 門 々 々 終 身 と 終 身 と 終 身 と 終 身 と

功 徳 々 々 終 身 と 終 身 と 終 身 と 終 身 と

万圓より及ぶらん仍し御進新留り申候
文母六年八月御と申す景房教

これ御を御申す人共御と申す
今迄御の御を御申す御と申す
かきと申す御

○裁取御判作候事申す所御伊勢国
備前守御使御下と申す御始御と申す
の事御名申すと申す又申す御
以御申す御義在り御何字と申す御可
撰に御申す御御先申す御御
若し御申す御又御御儒と申す御撰御

唐尼御殿若唐尼御殿御代と御の字申す
晴定御殿御判ハ意ハ申す

判ハ御押の御異御書ハ御御の字と申す
一御御ハ御御書ハ御御の字と申す
ハ御御ハ御御判ハ御御の字と申す
久し御御の御判ハ御御の字と申す
御御ハ御御の御判ハ御御の字と申す

○文安五年四月御見御御文ノ御御と申す
御御ハ御御の御判ハ御御の字と申す
御御ハ御御の御判ハ御御の字と申す
御御ハ御御の御判ハ御御の字と申す
御御ハ御御の御判ハ御御の字と申す

○白馬御會
御御ハ御御の御判ハ御御の字と申す

か多明りちりく今ハ只一二正也

○ 准^{ジユ}三后^{ザンゴウ}官下の官等

ち改官度民部省

心給前大僧正祐嚴准三宮封千戸事

右推大納言正三位源朝臣持康宣奉勅殊

給之者省宜兼知依^テ宜^ニ行符到奉行^{セヨ}

正四位下行右中兵藤原朝臣

従四位上行光大史小槻宿祢

宝徳元年九月二十六日

按^レテ^ル此^ノ准^トハ三宮^ノ准^トテ封^ル事^ノ貢^ト

賜^ル事^ノ官^等ノ事^ノ也

洛合記^ニ是^レ長亨二年の事記^ス

信^ト信^ト大^ノ河^ノ東^ノ合^ノ我^ノ意^ノ永^ノ三^ノ十^ノ三^ノ年^ノ八月

尹良親王
御自^レ不^レ也

日^ノ四^ノ派^ノ令^レ合^ノ我^ノ永^ノ亨^ノ七^ノ年^ノ十月^ノ長^ノ三^ノ君^ノ鹿^ノ州^ノ又^ノ所^ノ合^ノ我^ノ

尹良の御子良之織の考^ル危^クな^リま^シり

これと伊^ノ人^ノ等^ノの^レ我^ノ海^ノ終^ノめ^レは

し^ます^も極^める^も永^亨八年^丙月^元日^意

難^シと^モう^る免^れ味^をち^りし^ると^あり

お^しし^る海^ノノ^ちま^いり^も伊^ノ版^も頼^版に^クロ^コメ^タシ

大^ノ根^ノ北^ノ幅^切の^けお^小弱^の干^レり^も大^ノ根^の

割^りと^入り^て船^に洞^ノノ^ちま^いり^も伊^ノ版^に

仍^レ兼^ニ御^下令^ニ辭^シ中^一孫^ト依^テ明年^主上^レ申^元後^ニ
已^ニ此^事天^之預^リ也^何為^ヤ件^ニ方^ノ
殿^下密^ク所^レ被^レ御^也

依^テ皆^例歟^老者^所以下^後老^者所^也今^も
正^統の^そも^中に^てけ^れば^さら^に申^さす^べし^と
後^小松^院永^治二^年受^祥回^四年^正統^元年^乙未^の後^に
の^後と^皆親^とを^元後^のみ^にし^て正^統と^{天皇}
申^元後^ハち^かり^し也^正衛^大岡^今年^申六^十
二^年と^申す^也後^小松^院殿^相國^の宣^を
ト^の所^後今^度と^別關^の宣^をし^がま^し
す^をや^らす^にた^りし^るなり

○ 謀^ラ生^ラ待^定何^レ時^カ足^コ末^レ老^得閑^ニ是^レ閑

詩^ノ字^ヲ
全^書

一^レ聯^世の^望ふ^の用^ひは^いは^るる^の
教^をも^とめ^ん

○ 宗^ノ微^宗オ^ハ字^中花^致虚^とい^ふ者^奏し^て
天^下友^を教^する^にち^極し^り若^シ殺^ス者^ハ
必^ス刑^名あり^し事^由清^舊聞^とえ^んは^信は^ず
前^{將軍}亦^傳上^世の^所傳^者令^{あり}し^と
日^日終^る也

○ 平^別海^舟羽^田屋^長亦^傳井^村又^八十^余の^の
老^氏の^りの^着と^是し^て教^を平^松の^と年

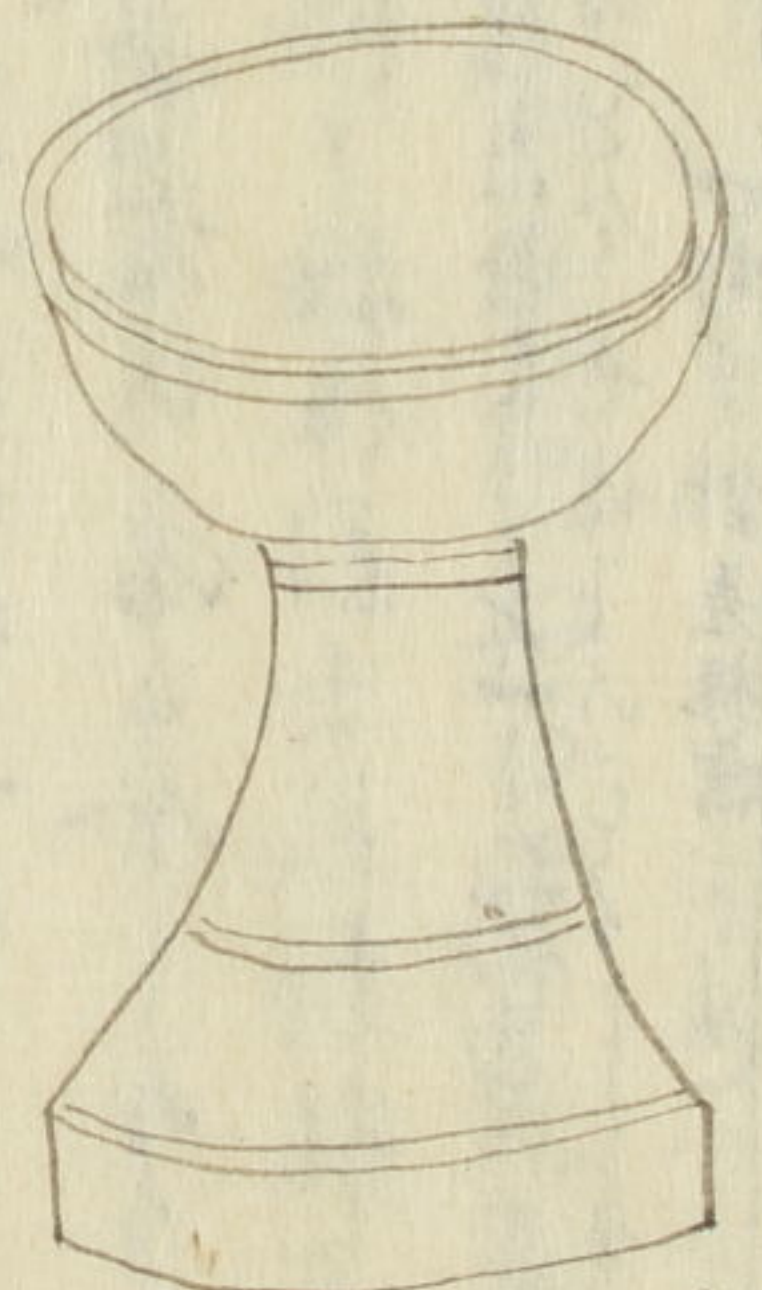
立朱漆高机四脚各有步敷供物ハ茄子二楮桃實一楮
 梨子一楮中ハ土器大豆一楮大角豆一楮鯛一楮蛇一楮右
 の一楮二脚但置座り上下るもや此して法流院殿東庭
 法一管経と奏する式詳々雲圖抄よりなり

今儀俗寺内法流院殿法流院殿東庭ハ即此也
 之れと豆の豆刻木をとりて此なり

登

登ト登ト
 不同登ハ
 双タハ又
 双豆ハ又ナリ

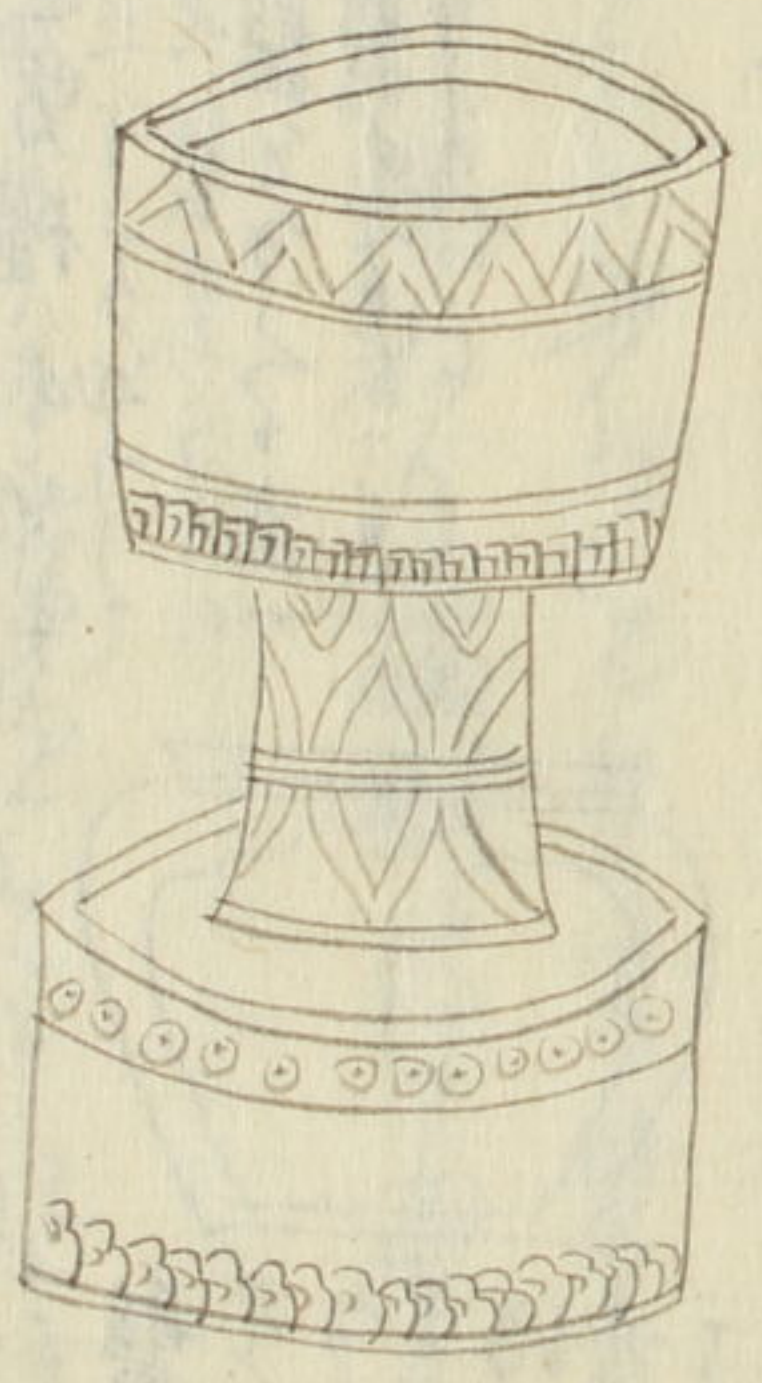
銅為之



高一尺三寸
 二分口径
 五寸深三寸六分

豆刻木為之

高九寸二分



口径九寸

わくしんそめいこく[○]中とありけり[○]中[○]の[○]尾[○]折[○]
あつち[○]お[○]り[○]し[○]る[○]ま[○]り[○]り[○]し[○]も[○]致[○]と[○]有[○]り[○]と[○]
し[○]て[○]掛[○]を[○]せ[○]ぬ[○]人[○]し[○]

益田と云ふは、東海と云ふの地あり、其の益田は東海
密と云ふは古に云ふの道場十金坊一旦古に云ふ
馬河河と云ふ地と云ふるは名所加納院一區に
たれりし益田の社と云ふは赤松古の集落歌より
あされし神と云ふは神と云ふは云々を云々
○中津歌をわたりて松の歌と云ふは松と八面の社と云ふ
昔は八面八頭の鬼神といふ事を知りて昔昔と云ふ
人は鬼と云ふは後鬼の社と云ふは人といふ

神といふは云々といふは云々一祠と云ふは云々
村里に傳へる口傳の歌といふは云々
て國志と云ふは云々といふは云々
下後も源義経と云ふは神と云ふは云々
成り近將監義経等と云ふは云々
○康正元年の事云々の傳といふは云々
の武成は云々歌と云ふは云々
傳といふは云々といふは云々
死といふは云々といふは云々

男らしに味方中村信之助林有島のそねをえきあぶりの
人のそよふかきそね形よあはれもきえ侍りしらん
歌の男あまをひらねるそよふかきそねの紋
そよふかきそねをひらねるそよふかきそねの紋
そよふかきそねをひらねるそよふかきそねの紋
そよふかきそねをひらねるそよふかきそねの紋
そよふかきそねをひらねるそよふかきそねの紋
そよふかきそねをひらねるそよふかきそねの紋
そよふかきそねをひらねるそよふかきそねの紋
そよふかきそねをひらねるそよふかきそねの紋
そよふかきそねをひらねるそよふかきそねの紋

かゝる時さしと命のたゞしめりて
と

ひらね身とそねもそねもそねもそねも
太田道灌詠草慕京集より
とねの所のそねもそねもそねも

- 正徳三年癸巳五月十八日相名少田京儀より伝書く
- 正徳三年六月十八日尾書より傳書く
- 正徳三年六月十八日尾書より傳書く
- 正徳三年六月十八日尾書より傳書く

後考を思ひたり久し所餘田海より活魚とれり
濱もともありは夜のうらとともける故をさされと伸を
餘とてつはるも故と源日記つとありおはれとて
ありそありはしきししともあり

○ けし七月の末彦城南門のたむ 新武吉所の塔あり
燿のしきまのゆきを圍一丈をうきさるおまを
ともけん程ありさまをきししともあり夕時日いろ
海ひあまゆにえりしきまもえれぬ蚊多
万億ともう飛りしけりともあり蚊柱といふや
ありしきまを都ものしと流りしりた六日
邦もかかれせりしりしんたひにあらをふりし

事此を物とてしきまをふりし

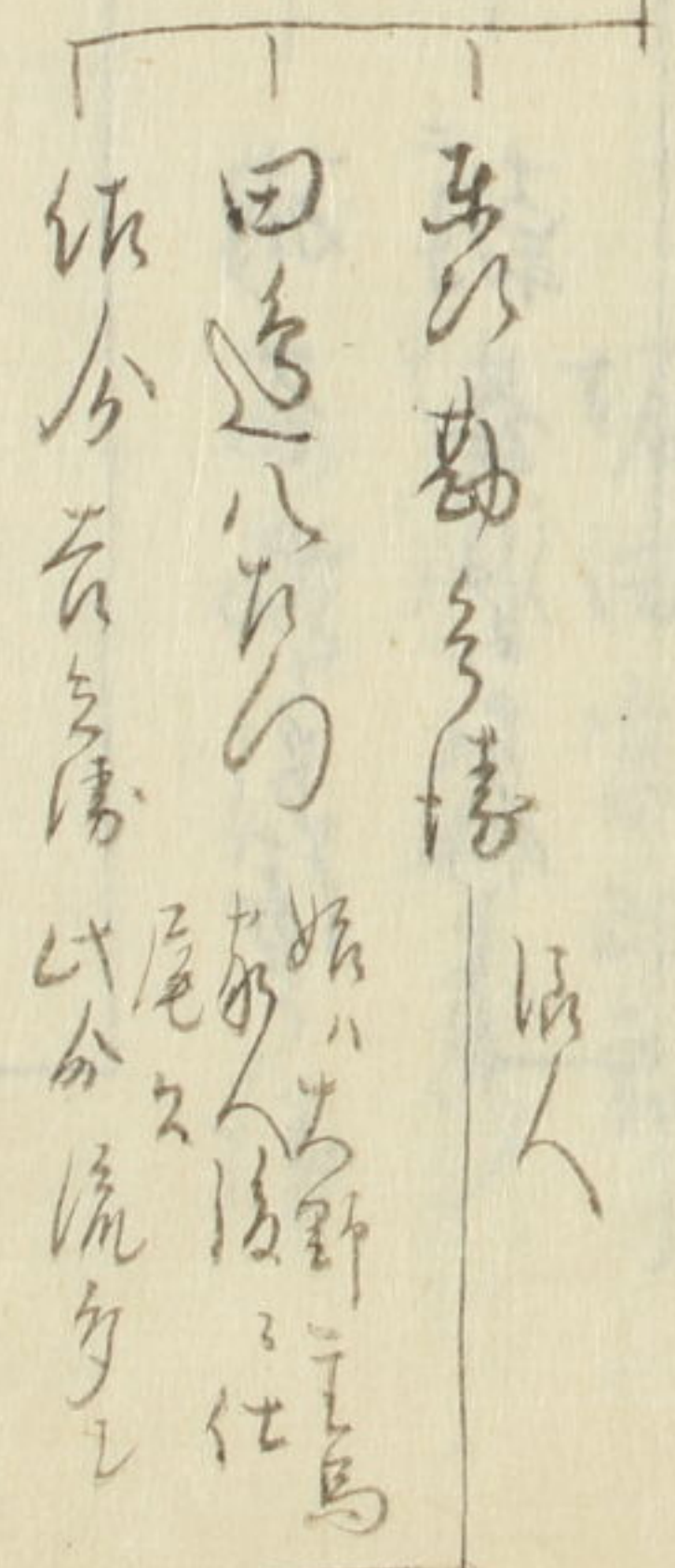
○ 或々申えの月と詠し中林の晴とてありある
一層のまよあり我も九月十三夜といふ月流きあり
考る所の初なりししともありし一時の風つらう川の代
よりめしつらひゆきし中右記 中御門右衛門 保延元
藤末忠記
年の九月十三夜今宵雲海月明空を平は皇名月無雙
元用被仰出仍我朝以九月十三夜を為明月
物れはす多代は九月十三夜の月と考し保延元し
○ 廁ハ吾流といふ雪 セツチヤウ 實山の明覚禪師靈蔭寺の
司廁きりししきりしりしりし
○ 近世在門右門等の糸ハ東百宿といふ織田羽柴の

此歌は貝原篤信の書に臨末の時穉世の分そく
 人海に結りしは翁若くはそのよ宿せし
 三下事し人より一世西征の幸多し
 ○ 法中世の事家紋ありその中に花丸紙園字
 字取と偏月と似て紋とせり是名と志す人
 多し

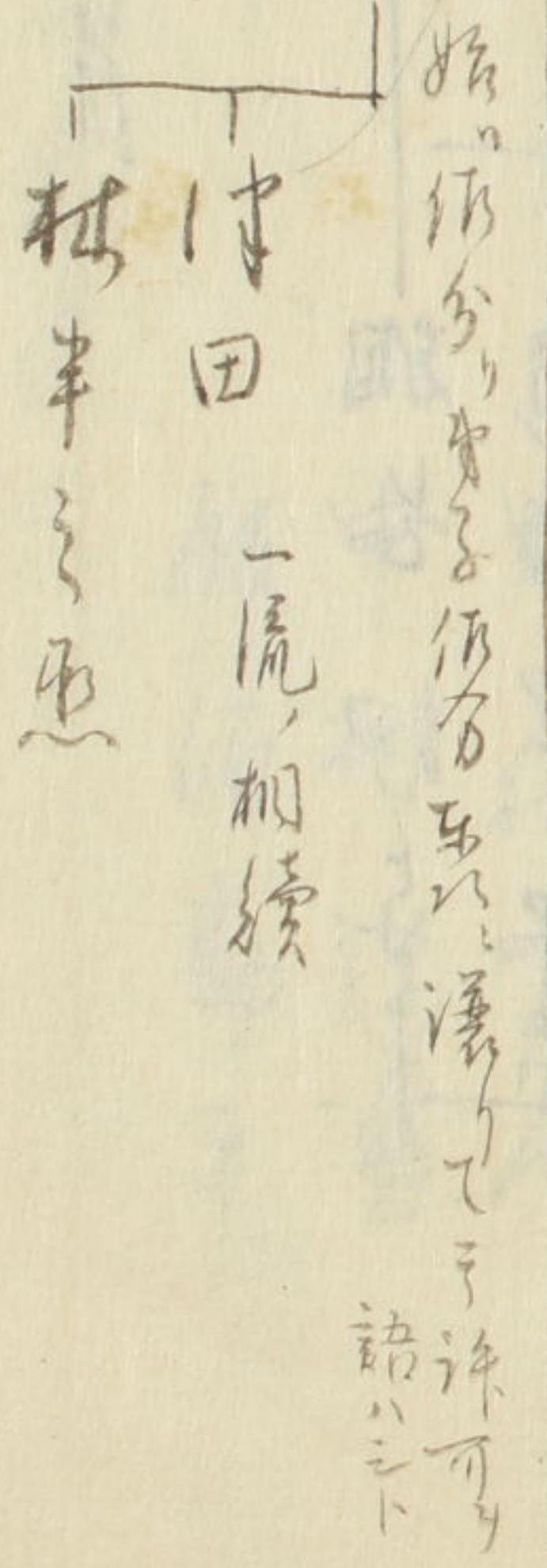
古名氏の紋七布ととる
 以類多し

○ 尚存流の師が虎尾孫之流の
 合流

知茶人
 虎尾孫之流



津田種之丞

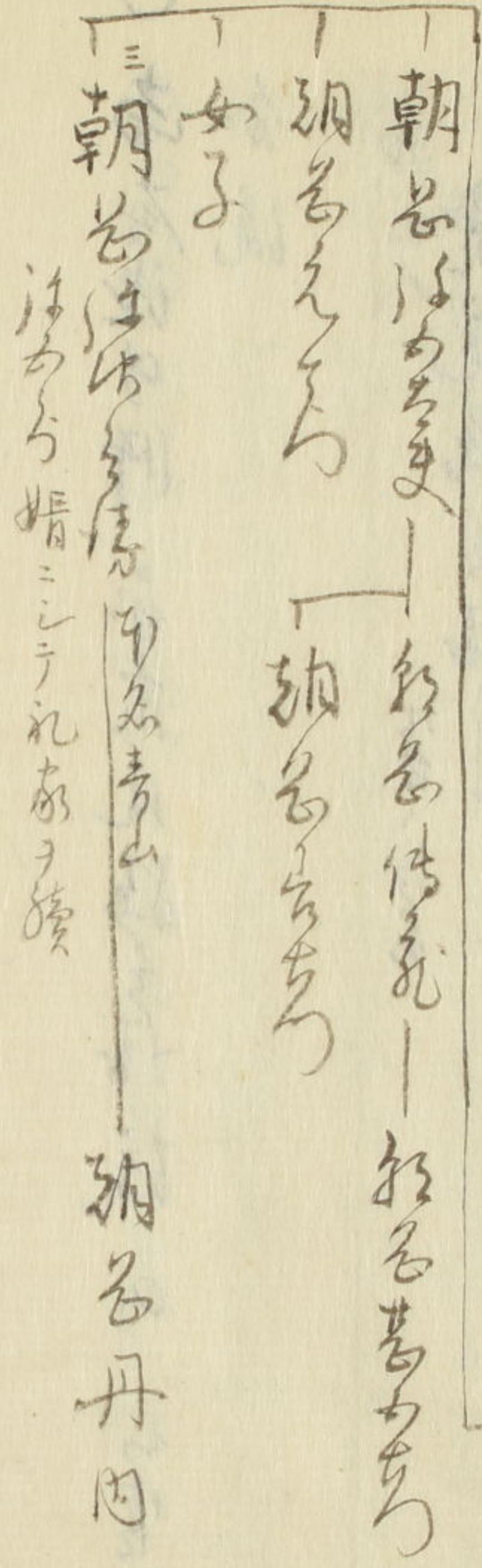


○尚府禮部寺正の流

三州 寺正の流

朝名伊子
朝名少年

朝名七三
朝名三郎



尾州 津島 四子七名子 寺正

一妻 津島

堀田宮子
塩川久子
寺正

寺正

野村文子
中村海也
飯沼勘平

人枚之子 寺正

守山村 古水村 八ノ宮村
 井田村 井納村 輪子村 新川村
 赤付村

右八ノ宮村之内三ノ子五石四十三石分ノ丈取
 付修修六ノ布也

二重 付修

大橋長三信
 河村久吉信
 老吉三吉信

奇合

總合 桑ノ水

表 海女信
 表 友助十信

人取二子七石分ノ丈取

平治村 井田村 高木村 上中村
 所田村 依田村 一ノ宮村 時信村
 大守村 河北村 新川村

右十一村之内三ノ子五石分ノ丈取

付修修六ノ布也
 二重 組合

織田七三信 人取信
 山川信

の茶号ハ所人の好号よりして 勅賜
又ハトテその事ハ明トス

○八珍 これ日本の食料ト好テ我國の
文章トシヨリハ其ノ事ハ

狸唇 豹腦 金蓋 ホツキニシ 玉膳 魚ノ名

紫駝峯 肉ト背 熊蹯 熊ノ掌 龍肝 龍髓

○確 白タリ 木熟 木ノ熟

泥藝 土ヲ以テ造ル 磨子 石運

鑪 火ヲ以テ 錫 目切

○玄糸 玄糸 海田神 高野の河伽井と後

一ノ井戸垢水と濁アして後古と垢
砂飯よりこぢめて中より鳥ノ大キ

去るる事 もぬたき あし 孫ノ井

羽 りより 空 又翔り 糸 る 行

伝 りぬえ 人 一二 事 す 希 者 也

事 りり 糸 ノ 糸 ノ 糸 ノ 糸 ノ 糸 ノ

寂 セリ 糸 ノ 糸 ノ 糸 ノ 糸 ノ 糸 ノ

○鬚 ハシ 髭 ハシ 髯 ハシ 文字 不曰 詩文

も 優 俗 つ 入 語 して た 一 を 事 ら

あり

○異邦 の 答 意 中 此 胎 終 一 け 一 か

麩果 糰子切 桃 ハシ 龍眼 水菓 蜜 梅 九 年 母 栗

茶 合 炒 茶 糕 粉 臘 鴨 風 魚 鱒 魚 鱒 魚 鱒 魚

海味

諸魚 本年 一取明

湯

麩粉湯 肉花湯 臭酸湯の類

餅餌

饅頭 豆沙糕 餅

熱茶

鹿茸 臭吐肺 餅

鹽醬

醬 酢 肉桂 鹽 胡椒 山椒 多

楮盒

これ 空後 臭多 肉本 子

大葉十盤也條とこれに准とて之なり

